

古代中国をとりまく胡漢諸民族の服飾に関する調査研究
Research on Clothing of Han and Hu Peoples Around Ancient China

石松 日奈子^{*1+}, 中川原 育子^{*2+}, 影山 悦子^{*3+}
Hinako Ishimatsu^{*1+}, Ikuko Nakagawara^{*2+}, and Etsuko Kageyama^{*3+}

*1 清泉女子大学文学部 東京都品川区東五反田 3-16-21

Faculty of Literature, Seisen University,
3-16-21 Higashigotanda Shinagawa-ku, Tokyo, Japan

*2 名古屋大学文学研究科

Graduate School of Letters, Nagoya University

*3 東京文化財研究所文化遺産国際協力センター

Japan Center for International Cooperation in Conservation,
National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture
Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract : Through examination of ancient art and archaeological material found in East and West Asia, and improvement of baseline data for research, this study aims to clarify various characteristics of clothing of Han and Hu peoples. Furthermore a relation between clothing and ethnic identity expressed in clothing, and political and social functions performed by clothing will be considered.

研究の目的

東アジアの中心であった中国王朝には古来多くの周辺民族(胡族)がやって来た。それらは中国王朝に朝貢するために派遣された各国の使者たちや、シルクロードを経て西方からやってきた商人たちで、中国の文献には匈奴、鮮卑、柔然、突厥、回鶻、粟特など、漢字表記の名称で記録されている。また、文献では各族の風俗や習慣、服飾や髪型などについても記述されており、定住型農耕民族の漢族と、移動型あるいは遊牧系の胡族とでは、本来服装や装飾に対照的な違いがあったと推測することができる。

そこで、本研究では東アジアから西アジア方面までを視野に入れて現存する美術作品や考古資料を実査し、研究の基礎となるデータを整備、胡漢諸民族の様々な服飾の特徴を作例によって明らかにすることを目指す。さらに、人間にとっての服飾とアイデンティティーの関係、服飾が有する政治的、社会的意味や機能についても考えてみたい。同時に、胡族と漢族の服飾が互いに混じり合い、影響し合っていく状況にも注目し、胡漢諸族間の同化、通婚の状況や家族の構造など、服飾文化研究における新たな可能性を見出していきたい。

* 1) ishimatsu@athena.ocn.ne.jp

研究の方法

本研究班は中国、東トルキスタン(新疆地区)、西トルキスタンのそれぞれの地域を専門とする研究者名で組織した。三年間の研究期間のうち、平成21年度は陝西以東の中国調査を実施し、仏教美術や墓葬美術、考古遺跡等に残る服飾資料のデータと最新情報を収集した。22年度は甘肅および新疆維吾ル自治区、23年度は西トルキスタン(ウズベキスタン)とエルミターージュ博物館で現地調査を行う計画である。なお、調査データ(所在、形状、法量、銘文、年代、種族の別等)はパソコンに入力してデータファイルとして整理・保存する作業を進めている。いっぽうで、考古学、美術史、服飾関係の参考文献も網羅的に収集している。同時に、現地調査で得たデータや最新の情報を活用して、各族の服飾状況を分析、研究する計画である。

平成21年度の調査研究

◆21年09月30日 平山郁夫シルクロード研究所で調査

綾錦袍(唐8世紀)、赤地連珠双鴨円文緯錦靴下(ソグド7-8世紀)、唐花文白綾靴下(唐8世紀)を調査。中でも綾錦袍はチベットで発見されたと伝えられ、中国製の綾で作った袍の縁に鹿文錦(ソグド製か)をあしらっている。脇のスリットや襟のつくり等を詳しく観察し、写真撮影を行った。

◆21年12月2日 淑徳大学書学文化センターで調査

淑徳大学所蔵の中国石刻拓本のうち、北魏～北周時代の造像記の拓本約40件を調査した。供養者画像や供養者名を観察し、胡服と漢服、胡姓と漢姓の出現状況を調べた。

◆21年12月19～30日 中国調査(内モンゴル自治区、山西省、陝西省)。

21年度は中国とその周辺地域を対象とし、とくに北魏を建国した鮮卑族の墓葬壁画や仏教造像に見られる鮮卑の服飾、東魏、西魏、北周、北齊時代の仏教供養者像や墓室壁画の人物像の服飾、さらに、中国王朝に仕えたソグド人の葬具に表された胡人の服飾を重点的に調査した。

(1)内モンゴル自治区文物考古研究所(内モンゴル自治区フフホト市)

陳永志所長に面会し、東胡、鮮卑族関係の考古資料展示室を見学し、情報収集した。

(2)内モンゴル自治区博物院(内モンゴル自治区フフホト市)

北朝期を中心に胡漢の考古資料を見学した。中でも胡服や胡帽、帯飾りなどの実物資料を見ることができたのは大きな収穫で、スケッチと写真撮影を行った。

(3)盛楽博物館(内モンゴル自治区ホリンゴル市)

内モンゴル自治区文物考古研究所の案内で、フフホトの東南70キロに位置するホリンゴルを訪れ、代国(北魏の前身)時代の故城址と、盛楽博物館を見学した。盛楽博物館には和林格爾漢墓壁画の復原や、ホリンゴル地区から出土した東胡や鮮卑の考古資料が展示され、服飾資料を中心に見学、写真撮影した。

(4)雲岡石窟(山西省大同市)

雲岡石窟研究院の案内で窟内に入り、胡服や漢服の供養者像、仏教説話図中の世俗人物などを確認し、供養者の構成や配置、服装などを観察し、写真撮影を行った。

(5)大同市博物館(山西省大同市)

大同周辺で発見された北魏時代の墓葬資料が展示されており、方山永固陵や司馬金龍墓、宋紹祖墓などから出土した大量の人物俑、騎馬俑、胡人俑、陶製の動物、石彫、木棺画など観察した。とく

に俑の衣服を詳しく観察し、新しい知見を得た。

(6)山西博物院(山西省太原市)

北魏～唐時代の墓葬や仏教美術作品の展示室で調査。北魏時代の墓から出土した棺板に描かれた鮮卑風俗の出行図や、胡服の舞人俑、伎楽俑、雑伎俑、北齊時代の庫狄廻洛墓、婁睿墓、徐顕秀墓、隋代の虞弘墓から出土した武人俑や侍者俑、楽人俑、画像磚などを観察し、衣服の形状や色、冠帽や髪型などを研究した。仏教美術では造像碑の供養者像を調査した。

(7)徐顕秀墓(山西省太原市)

山西民俗博物館長の案内で北齊時代の徐顕秀墓の内部を見学した。墓室内には等身以上の大きさの人物像が描かれ、とくに胡服・胡帽の人物像を中心に詳しく観察した。

(8)中国煤炭博物館内壁画臨模展示室(山西省太原市)

石炭に関する博物館の中に、山西省各地の壁画の模写や実物大写真を展示した部屋があり、婁睿墓や徐顕秀墓壁画の模写を見学した。

(9)山西民俗博物館(山西省太原市) 清朝の服飾展示室を見学した。

(10)山西芸術博物館(山西省太原市)

碑廊に並ぶ山西省内の仏教造像碑約 30 件(北魏～唐時代)を調査。供養者像や供養者名を確認し写真を撮影した。

(11)乾陵博物館(陝西省咸陽市)

陝西省考古研究院の案内で、唐の高宗と則天武後の合葬陵である乾陵の博物館を訪れ、開催中の「胡俑展」を見学、写真を撮影した。とくに、唐時代の三彩釉や加彩の胡人俑が多数陳列されており、それらを会場で比較検討し、胡人が片腕を服から抜き出した場合の衣服の処理について理解することができた。また、乾陵の陪葬墓のひとつである永泰公主墓の内部を見学した。

(12)昭陵博物館(陝西省醴泉県)

唐の太宗の墓である昭陵の博物館で、昭陵の陪葬墓から出土した極彩色の武官・文官俑や長いマントを羽織る俑などを見学し、色や形について詳しく観察、写真撮影を行った。また、昭陵から出土した十四国蕃君長石像の一部と台座を調査した。

(13)西安博物院(陝西省西安市)

西安北郊のソグド人の墓(李誕墓、史君墓)から出土した葬具を調査。とくに史君墓出土の石椁表面に施された浮彫はソグドや突厥の服飾資料として重要で、写真撮影を行った。

(14)陝西歴史博物館唐墓壁画収蔵庫(陝西省西安市)

特別観覧手続きをして唐墓壁画収蔵庫を見学。館員の案内で唐の章懐太子墓の外国使節図や、懿徳太子墓の出行図などを見学。

(15)陝西考古研究院(陝西省西安市)

陝西省考古研究院で北魏～唐時代の陶俑と木俑を見学、さらに研究院の基地で新発見の仏教造像と崇陵出土の石人(君長像か)を見学した。

◆22年01月20日 平山郁夫シルクロード美術館(山梨県北杜市)見学

開催中の展覧会「ガンダーラ ―仏像のふるさと」を見学。石彫やストゥッコ製の供養者像の胡服や胡帽の種類や形状を観察した。

データの整理・保存

調査で得たデータや写真はすべてコンピュータで整理し、作例別にファイル(作品名、写真、原所在地、現在の所在地、材質、法量、国家、民族、時代、参考文献などを記入)を作成して保存している。

次年度への展望

今年度は漢族文化圏および北辺地域を重点的に調査したが、来年度(22年度)は西へ向かって甘肅省から新疆維吾爾自治区の仏教遺跡や墓葬を中心に調査研究を行い、シルクロード沿いに往来した中央アジアの民族の服飾について情報とデータを収集する計画である。